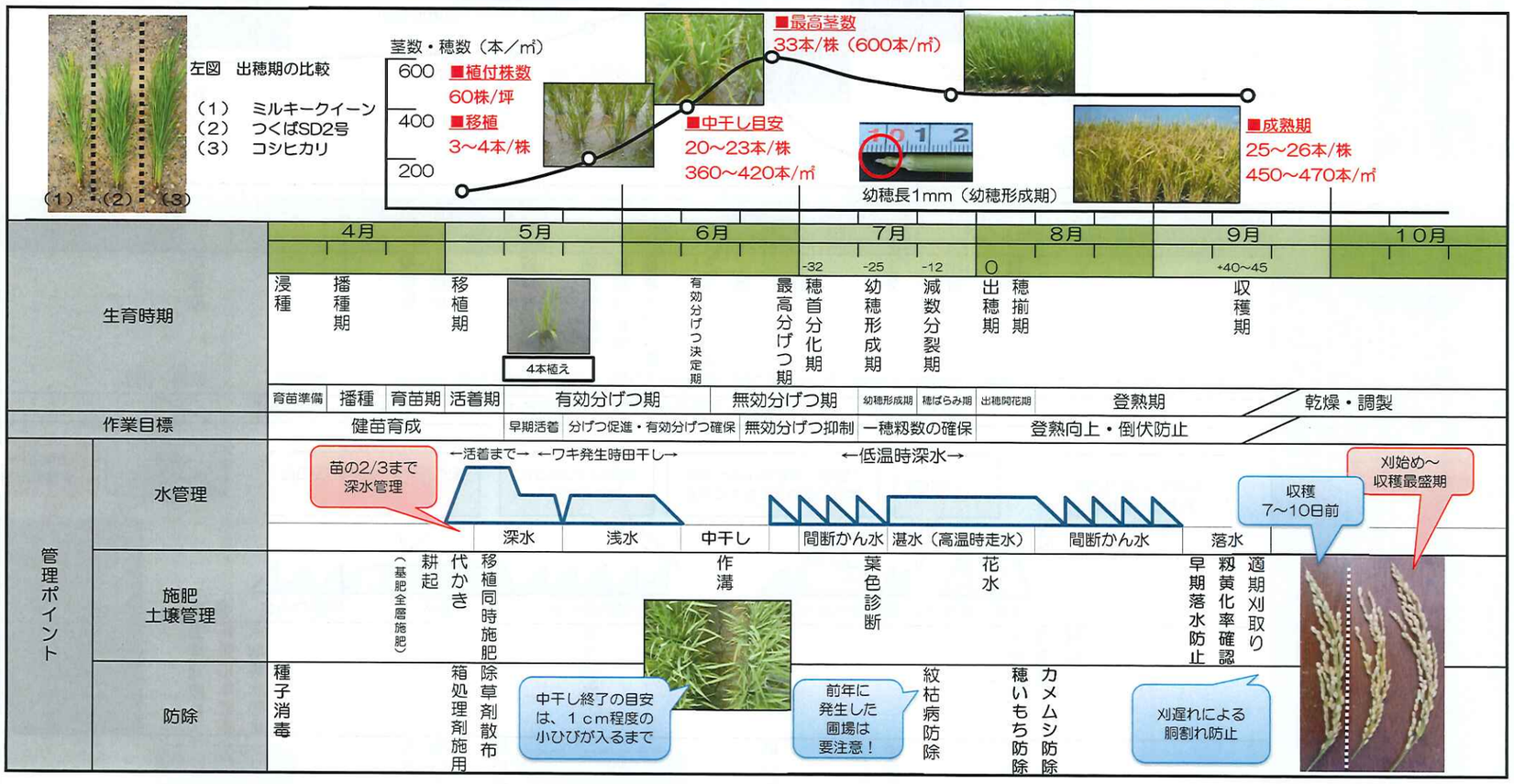
MiRISE つくばSD2号 移植栽培暦（2019年）JAかみはやし



つくばSD2号栽培のポイント

1. 薬剤による種子消毒が必要。浸種は積算１００℃を目安。
2. 播種量は稚苗：乾籾１４０g/箱を推奨とし、地域事情を考慮して慣行範囲で調整する。
3. 当社推奨一発肥料を全量基肥として、現物３０kg/１０a（8．１kgN/１０a）を施用する。地力等により加減する。
4. 植付本数は地域のコシヒカリ慣行に合わせる。60株植え：株当たり3～4本、50株植え：株当たり4本程度。初期茎数確保を重視する。
5. 植付株数は６０株/坪（１８株/㎡）基準に、地域事情を考慮して調整する（上限７０株、下限５０株）。
6. 中干しは有効茎360～420本/㎡の茎数確保で小ひびが入る程度に実施する（地域技術指針を考慮）。幼穂形成期までに中干しは終了する。
7. 幼穂形成期（出穂２５日前頃）にSPAD４０、その１０日後にSPAD３５を目標とする。その後、穂揃期までに顕著な葉色低下が見られた際には追肥する。
8. 中干し後は間断かん水を実施し、登熟向上のために収穫前１０日まで完全落水しない。
9. 成熟期にかけてコシヒカリよりも葉色が濃いので、収穫は籾黄化率(刈り始め：８５～９０%)で最終判断する。刈遅れによる胴割れに注意する。

目標収量構成要素	
つくばSD2号 目標収量（kg/10a）	６３０
穂数（本/㎡）	450～470
一穂籾数	75～80
㎡当たり籾数	36,000
登熟歩合（%）	80
千粒重（g）	22.0

施肥設計

区分	施用時期	銘柄	現物施用量（kg/10a）	含有成分（%）			施用量（kg/10a）			備考
				N	P_2O_5	K_2O	N	P_2O_5	K_2O	
基肥	代かき前～移植同時施用	SD用 HN700	30 kg	27	10	10	8.1	3.0	3.0	被覆尿素配合一発肥料。全層施肥、側条施肥共に可能。
穂肥 ＊葉色が目標値を下回った場合	出穂前25日にSPAD40未満						1.0～2.0	0.0	1.0～2.0	葉色が基準値下回った場合追肥する。
	出穂前15日にSPAD35未満						1.0～2.0	0.0	1.0～2.0	
合計							8.1	3.0	3.0	

防除体系 （基本資材＋推奨農薬）

施用時期	防除作業	基本＊／推奨	農薬名	薬量	処理法等	備考
種子消毒時	種子消毒	推奨	スポルタックスターナ			糸状菌・細菌による病害の同時防除が可能
育苗期	育苗箱施用	推奨	ダコニール、ダコレート			苗立枯病
		基本	ボクシーＤＳ箱粒剤	50 g/箱	播種時（覆土前）～移植当日	初期害虫、ウンカ
			ボクシーＳＰ粒剤	50 g/箱	播種時（覆土前）～移植当日	いもち、初期害虫、チョウ目害虫、ウンカ
田植時～後	除草（初期剤）	推奨	兆（フロアブル、１キロ粒剤）	/10a		１．５葉期迄のノビエに有効。コナギ、オモダカ等に高い効果。
	除草（初中期一発）	基本	クレバールＺ１キロ粒剤	1 kg/10a	本田湛水散布	１キロ粒剤は移植時～ノビエ３葉期まで、フロアブル・ジャンボは移植後５日～ノビエ３葉期まで有効。ＳＵ抵抗性ホタルイ、コナギ、アゼナ、オモダカ等に高い効果。クログワイ、コウキヤガラ等に高い効果。
			クレバールＺフロアブル	500 ml/10a	原液湛水散布	
			クレバールＺジャンボ	300 g/10a	投げ込み	
出穂前	いもち・紋枯病	推奨	コラトップリンバー	3～4 kg/10a	出穂30日前から5日前まで	いもち、紋枯れの同時防除。
出穂前 ～ 穂揃い期	紋枯病	推奨	バリダシン（液剤、粉剤）	/10a	収穫14日前まで	病勢進展阻止効果が高い。
			リンバー粒剤	3～4 kg/10a	発病初期から進展・後期	予防・治療効果に加え残効に優れる。
	穂いもち	推奨	プラシン（フロアブル、粉剤）	/10a	収穫7日前まで	穂枯性病害にも効果の高い仕上げ防除剤。
出穂期～乳熟期 乳熟期	カメムシ	推奨	ダントツ粒剤	3～4 kg/10a	収穫7日前まで 湛水散布	粒剤散布による省力防除。
			スミチオン、ダントツ（水溶剤、粉剤）	/10a		

病害虫防除・除草のポイント

1. 種子消毒は必ず行う。
2. 当社基本資材の箱処理剤を施用し、いもち病や初期害虫等を防除する。
3. 葉いもち、穂いもちは発生予察に基づき効果的な防除を実施する（必要により穂ばらみ期＋穂揃期の2回防除推奨）。
4. 紋枯病は過繁茂で影響が出やすく、特に前年発生した所は箱処理に加え、多発生の場合は本田防除も実施する。現地指導に従い、必要な害虫防除（カメムシ等）を実施する。
5. 除草は当社基本資材の初中期一発剤を適期に処理し水管理を適切に行う。生育中期以降、雑草が発生した場合は中・後期除草剤を散布する。